



## 目次

トップメッセージ	3
ゴールドウインが目指す「サステナビリティ」	4
PEOPLE	7
ポッチャと障がい者スキーの日本代表にウエアを提供	8
視覚障がい者のクライマーを支援する「Monkey Magic Tee」を販売 ／「チェアスキー体験会」を前年に引き続き開催	9
デフ選手のコミュニケーションを支援する小冊子を作成 ／ウィルチェアーラグビー競技大会で会場設営	10
障がい者雇用の促進／障がい者水泳日本代表選手が在籍 ／障がい者が働きやすい環境づくり	11
自然を体感しながら親子で学ぶ「THE NORTH FACE KIDS NATURE SCHOOL」 ／親子で参加できるテニスイベントを開催	12
PROSPERITY	13
研究開発施設「ゴールドウイン テック・ラボ」を創業地に開設	14
主な研究設備・施設	15
「MOON PARKA」のテスト検証を「ゴールドウイン テック・ラボ」で実施	16
「富山マラソン2017」にゴールドパートナーとして特別協賛 ／「寛仁親王記念杯 第19回北陸ウェルフェアゴルフトーナメント」を特別後援	17
「SPORTS FIRST」を自ら実践する社員を紹介し、表彰 ／新たな業態の開発と店舗づくりを支える社員のアイデア	18
接客と販売スキルを競うセールスコンベンションを開催 ／健康経営優良法人「ホワイト500」に認定	19
女性社員の活躍	20
PLANET	21
スポーツ用品メーカーとして環境のためにできることを、GREEN IS GOODの コンセプトのもとで展開／「GREEN CYCLE（繰り返し使う）」の取り組み： 循環型リサイクルシステムの仕組みを強化	22
不要になった学校体操着を回収し、リサイクル／循環型社会に向けての取り組み ／「GREEN MATERIAL（選んで使う）」の取り組み：玉ねぎの外皮を染料として 利用したスポーツ衣料	23
「GREEN MIND（大切に使う）」の取り組み：リペアサービス	24
熟練した職人の技術力	25
環境活動報告	26
コーポレートガバナンス	30
会社概要	32
経営情報	33

### 【CSRレポートについて】

本レポートは、ゴールドウイングループのCSRに関する取り組みを知っていただくため、毎年発行しているものです。本レポートならびに当社のCSR推進活動に対するご意見、ご感想、ご要望などをお待ちしております。

## TOP MESSAGE

スポーツの社会的責任を意識し、  
より健やかで豊かな共生社会の実現を目指してまいります。

いよいよ2年後の2020年、オリンピック・パラリンピックが東京で開催されるのに先立ち、その前年にはラグビーワールドカップ2019日本大会が開催され、人々のスポーツへの関心がますます高まっています。それに伴って、スポーツの社会的責任も高まっており、環境配慮だけでなく、社会との関わり、経済活動も含めた持続可能性が求められています。

2015年に国連において採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、今や多くの企業にとって社会的責任を果たす指標となっていますが、この目標をスポーツに当てはめて、ひとつひとつの目標達成は微力でも、SDGsの17のゴール各々がつながりを持ち、相互に作用するものと考えて、スポーツを通じた持続可能な社会貢献を積重ねていくことが、「共生社会の実現」につながるものと考えます。

いつも志と挑戦を抱いて前進を続ける人たちを応援すること。スポーツを通じて次世代を担う人材を育成すること。障がい者スポーツへの支援を通じて、スポーツの可能性を追求すること。地域とスポーツとの関わりを考え、人々の健やかで豊かな暮らしを提案すること。当社は、これらのスポーツを通じた社会貢献活動を続けています。その根底には、何よりもスポーツを一番に考え、心から愛し、自ら実践し、スポーツのチカラを信じる「SPORTS FIRST: スポーツ・ファースト」という私たちの強い想いがあります。

当社は「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」を経営理念とし、健常者にも障がいのある人にも分けへだてなくスポーツを楽しむ機会が与えられるよう、「する人」「見る人」「支える人」の三者を等しく支え、「SPORTS FIRST: スポーツ・ファースト」で、誰もが健やかで豊かに暮らせる共生社会の実現を目指してまいります。

2018年10月  
株式会社ゴールドウィン  
代表取締役

西田明男



## ゴールドウィンが目指す「サステナビリティ」

当社は「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」を経営理念とし、健常者にも障がいのある人にも分けへだてなくスポーツを楽しむ機会が与えられるよう、「する人」「見る人」「支える人」の三者を等しく支え、誰もが健やかに暮らせる「共生社会」の実現に寄与することを指針にこれまでCSR活動に取り組んでまいりました。

2015年国連において採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」が目指すものは、当社が目指すものと同じ「共生社会の実現」です。そのため、当社でも微力ながら貢献できるSDGsの目標があると考えます。

そこで、当社は、「CSR(企業の社会的責任)」ではなく、「サステナビリティ(持続可能性)」という考え方をより重視し、SDGsを軸とし、社会的責任により幅広くチャレンジしていきます。

SDGsのゴールは、別々に達成するものではなく、各々がつながりを持ち、相互に作用するものです。ゴールドウィンが目指すサステナビリティも、環境配慮だけではなく、社会との関わり、経済活動も含めた当社の事業そのものに関わるものです。

SDGsでは、17の目標を「People(人)」「Prosperity(豊かさ)」「Peace(平和)」「Planet(地球)」「Partnership(連帯)」に分類しています。本レポートでは、2017年度の当社の主な活動を、当社の事業活動があてはまる3つ(People、Prosperity、Planet)に大別し、ご報告いたします。



持続可能な開発目標 (SDGs) 17のゴール

## 持続可能な社会構築への貢献



# SPORTS FIRST

スポーツを一番に考え、心から愛し、自ら実践し、より良い製品・サービスの具現化につなげていく——  
そんな想いを込めて、当社はタグラインとして「SPORTS FIRST:スポーツ・ファースト」を掲げています。  
企業理念「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」の実現に向けて、私たちはすべての取り組みに  
おいて、スポーツ・ファーストを貫いています。

## PEOPLE

誰もが健やかに暮らせる「共生社会」の実現に寄与する。

健康な人にも障がいのある人にも分けへだてなくスポーツを楽しむ機会が与えられるよう、「する人」「見る人」「支える人」の三者を等しく支え、誰もが健やかに暮らせる「共生社会」の実現に寄与することを目指します。

### 【ゴールドウインの取り組み例】

- ・障がい者スポーツへのサポートと、障がい者スポーツに対する理解促進に向けた取り組みを推進。
  - ・障がい者雇用を促進。障がい者アスリートも社員として在籍。
  - ・子どもたちを対象にしたスポーツ支援活動を開催。
- 詳しい内容はP7～12

### 【関係するSDGs目標】



## PROSPERITY

持続可能な「豊かさ」を多彩な側面から追求する。

技術革新の追求、職場環境の整備、地域のスポーツ振興など、多彩な側面から持続可能な「豊かさ」について常に考え、取り組みを推進します。

### 【ゴールドウインの取り組み例】

- ・研究開発施設を開設し、最先端技術を駆使したスポーツウェアの開発を始動。
  - ・健康経営優良法人「ホワイト500」に認定。
  - ・変化し続けるお客様のニーズに応え、さらなる豊かさを提供できるよう、業態やサービスの開発も推進。
- 詳しい内容はP13～20

### 【関係するSDGs目標】



## PLANET

美しい自然環境を次世代に確かに受け渡す。

環境に配慮した製品の開発、楽しみながら環境への負担を減らせるようなアイデアなど、スポーツ用品メーカーとして環境のためにできることを「GREEN IS GOOD」のコンセプトのもとで展開しています。

### 【ゴールドウインの取り組み例】

- ・循環型リサイクルシステム「GREEN CYCLE」の仕組みを強化。
  - ・商品の長期使用を支える修理体制を構築。
  - ・「環境基本理念」と「環境方針」を定め、持続可能な社会実現のための行動計画を作成。
- 詳しい内容はP21～29

### 【関係するSDGs目標】



## PEACE & PARTNERSHIP

「平和・安全・ガバナンス」と「SDGs実施推進の体制・手段」

現時点では、当社の事業活動により貢献できる3つのP (People, Prosperity, Planet) に分類される取り組みに注力します。今後、PeaceとPartnershipに分類される取り組みについて、当社ができることを検討してまいります。



# PEOPLE

当社は、健康な人にも障がいのある人にも分けへだてなくスポーツを楽しむ機会が与えられるよう、「する人」「見る人」「支える人」の三者を等しく支え、誰もが健やかに暮らせる「共生社会」の実現に寄与することを目指しています。

## PEOPLE

## 障がい者スポーツ支援

スポーツ用品メーカーとして蓄積してきた技術と経験をもとに、当社は障がい者スポーツ支援活動を積極的に行っております。2015年4月に日本障がい者スポーツ協会とオフィシャルパートナー契約を締結したことをはじめとして、日本身体障がい者水泳連盟、日本ウィルチェアラグビー連盟、日本ボッチャ協会とも契約し、当社が企画・生産するブランドで日本代表チームへウェアの提供を行っています。継続的に誰もがスポーツに参加し、楽しめる環境づくりをサポートしています。

## 「する人」への支援

ボッチャと障がい者スキーマの  
日本代表にウェアを提供

2017年4月から一般財団法人日本ボッチャ協会のゴールドパートナーとして、日本代表「火ノ玉JAPAN」の公式ユニフォームを提供しています。2018年3月17日から21日に日本で初めて開催された国際大会「BISFed 2018 アジア・オセアニア地区ボッチャオープン」においても、新デザインのユニフォームを提供しました。その際、ボッチャ競技特有の腕の動きなどを考慮した専用ウェアを開発しました。

また、2017年8月に特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟とオフィシャルスポンサーならびにオフィシャルサプライヤー契約を締結し、アルペンスキーチーム(身体・知的障害)、ノルディックスキーチーム(身体・知的障害)、スノーボードチーム(身体)の各日本代表メンバーおよび役員・スタッフにチームそれぞれのオリジナルデザインのウェアを提供しています。





## PEOPLE

「支える人」への支援

### 視覚障がい者のクライマーを支援する「Monkey Magic Tee」を販売

ロッククライミングは、視覚障がい者が安全に楽しめる数少ないスポーツの1つです。NPO法人モンキーマジックは、スクールやイベントなどのさまざまな活動を通じて、視覚障がい者のクライミングをサポートし、クライミングを通じた健常者との交流の場を広げるユニバーサルな社会を目指した活動をしています。この取り組みは2006年1月にスタートし、2017年で12年目を迎えました。

当社はこの活動を支援するTシャツ「Monkey Magic Tee」を、「THE NORTH FACE」ブランドで製作・販売し、売上の一部を寄付しています。

#### 【デザイン】

背面には「NO SIGHT BUT ON SIGHT」というNPO法人モンキーマジックのローガンがプリントされています。「見えなくても(=NO SIGHT)、一度で登りきれる(=ON SIGHT)!」という意味です。



「する人」への支援

「見る人」への支援

### 「チェアスキー体験会」を前年に引き続き開催

2018年3月3日、4日に苗場スキー場で開催された、当社が特別協賛する「第19回 ゴールドウイン ナスターレース ユース・ジャパンカップ」では、併催イベントとして「チェアスキー体験会」を前年に続き開催しました。このイベントは、日本障害者スキー連盟・チェアスキー協会の協力を得て行われ、一人でも多くの方に実体験を通して障がい者スポーツへの理解を深めていただくことを目的としています。2日間でのべ約50名が参加し、その多くは子どもたちで、初めてふれるチェアスキーの難しさや面白さを体験していただくことができました。



## PEOPLE

「する人」への支援

「支える人」への支援

### デフ選手のコミュニケーションを支援する小冊子を作成

「ゴールドウイン ナスターレース ユース・ジャパンカップ」は、小学生・中学生の選手が参加する全国規模のスキー大会です。2017年大会からはデフ（ろう者）選手も参加し、同じ舞台上で仲間と競い合っています。当社では、大会に参加するデフ選手と運営スタッフが円滑にコミュニケーションをとれるよう、指さしで意思疎通のできる日英併記の小冊子「DEAF SKI ATHLETE WRITING NOTEBOOK」を作成しました。



「見る人」への支援

### ウィルチェアーラグビー競技大会で会場設営

当社がオフィシャルパートナーを務める日本障がい者スポーツ協会主催の「2018ジャパンパラウィルチェアーラグビー競技大会」（2018年5月24日～27日開催）の会場設営に、当社社員が参加しました。この会場設営には日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナーとなって以来、毎年新入社員も研修の一環として参加しており、2018年で4回目となる今回は総勢13名がアリーナのフロア全体のシート敷きとスポーツコートの組み立てを行いました。こうした活動を通じて、当社社員は障がい者スポーツ支援への理解を深めています。



## PEOPLE

### 障がい者雇用の促進

当社では、ホームページに「障がい者採用情報」のページを開設するなど、積極的に障がい者の雇用促進に取り組んでいます。営業、企画、販売など、多岐にわたる職種で障がいのある社員が活躍しており、新卒から20年以上勤務している社員もいます。

障がい者雇用率は2.03%（2017年3月現在）と、法定の2.0%を上回っています。2018年4月に法定雇用率が2.2%に引き上げられましたが、今後も引き続き障がい者雇用促進に取り組み、法定雇用率の達成を目指していきます。



### 障がい者水泳日本代表選手が在籍

当社には、障がい者水泳日本代表選手の鈴木孝幸が、2009年より社員として在籍しています。障がい者アスリートと同じ会社の仲間として応援することで、社員に障がい者の方々への理解や親近感を自然に身につけてもらうことを目指しています。

鈴木孝幸は、2004年アテネ大会から2016年のリオデジャネイロ大会まで4大会連続でパラリンピックに出場し、金メダル1つ、銀メダル1つ、銅メダル3つを獲得した実績を持ちます。2017年9月2日・3日に開催された「東日本大震災復興支援 World Para Swimming公認2017ジャパンパラ水泳競技大会」では、男子150m個人メドレーと男子100m自由形で金メダル、男子50m平泳ぎで銀メダルを獲得しました。



### 障がい者が働きやすい環境づくり

障害のある社員が生き生きと活躍できる職場環境の整備に努めています。本社社屋では、車いす用トイレを設置するなど、バリアフリー化を推進しています。また、研修などを通じて、障がい者支援に対する社内意識・知識の醸成に努めています。



## PEOPLE

子どもたちがスポーツの楽しさを知ることは、心身の健やかな成長につながります。当社では、子どもたちを対象にしたさまざまなスポーツ支援活動も実施。また、家族でスポーツの楽しみを知ってもらうため、親子参加型のイベントにも積極的に取り組んでいます。

### 自然を体感しながら親子で学ぶ 「THE NORTH FACE KIDS NATURE SCHOOL」

未来の地球を受け継ぐ子どもたちとその親御さんに、自然に寄り添い、生きる力を育んでもらいたいという思いから、親子が自然の中で楽しみながら学ぶ「THE NORTH FACE KIDS NATURE SCHOOL」を2017年度も継続して開催しました。

#### 【親子で学ぶトレイルランニング】

5月28日、トレイルランニングの第一人者、鍋木毅氏を講師に迎え、親子で楽しく学べるトレイルランニングのイベントを開催しました。

#### 【ファミリートレッキング in 大山】

7月8日、神奈川県にある標高1,252mの大山にて、親子で登るトレッキングイベントを実施しました。

#### 【ウォーターサイド アドベンチャー in 仁川渓谷】

8月5日、兵庫県西宮市の甲山森林公園の麓にある仁川渓谷にて、植物や生き物たちとふれあう自然体験のイベントを開催しました。

#### 【ファミリークライミング in 瑞牆山エリア】

10月29日、THE NORTH FACEアスリートでプロフリークライマーの平山ユージ氏を講師に迎え、親子でクライミングを楽しく学べるイベントを、日本を代表する岩場である瑞牆山(みずがきやま)エリアにて開催しました。

#### 【KIDS TREKKING in 妙義山】

11月11日、群馬県にある妙義山(みょうぎさん)にて、子どもたちだけで挑戦するトレッキングイベントを開催しました。



### 親子で参加できるテニスイベントを開催

子どもや親子を対象としたテニスイベント「FEEL & TRY TENNIS」を二子玉川にて2017年10月1日に開催。エレッセ契約選手のフェリシアーノ・ロベス選手をゲストに迎え、元プロテニスプレーヤーの瀬間友里加さんとともに、トークショーや、スポンジボールを使用した簡単なテニスレッスンを行いました。トークショーには約70名の観客が集まり、非常に盛り上がりました。テニスレッスンには16名の子どもが参加。子どもたちはとても楽しんでいる様子でした。



# PROSPERITY

Prosperityは「豊かさ」や「繁栄」を意味します。ものづくり企業としてお客様にさらなる豊かさを提供するために、技術革新を追求する。社員が日々、豊かさや自らの成長を実感しながら働けるよう、職場環境や研修制度を整える。地域社会の繁栄に、スポーツ振興などを通じて貢献する。私たちは多彩な側面から持続可能な「豊かさ」「繁栄」について常に考え、取り組みを推進しています。

## PROSPERITY

## イノベーション

SDGsでは目標9において「産業と技術革新の基盤をつくろう」を掲げています。イノベーションに取り組み、産業の成長につなげることは、持続可能な開発を促進する上で重要な手段の1つです。当社は創業から培ってきた技術と、新たに導入する最先端技術を生かし、誰もが想像し得ない新たな価値を持った製品の開発に努めています。

## 研究開発施設「ゴールドウイン テック・ラボ」を創業地に開設

当社は2017年11月、創業地である富山県小矢部市に研究開発施設「ゴールドウイン テック・ラボ」を開設しました。最先端設備の導入による人知とITを融合した製品開発力、さらにその高い品質を保持するための独自の品質検査体制を実現することで、誰もが想像し得ない新たな価値を持った製品の開発を目指しています。また、Spiber(スパイバー)株式会社との協業に代表される次期中核事業に関する開発を行うこと、そして、さまざまな研修を行い、ものづくりから販売までを一貫する当社独自の取り組みをさらに強化することも、目的としています。

### 【設立の背景】

当社の開発はこれまで1989年に完成したゴールドウインテクニカルセンター(GTC)で行われてきました。GTC完成から約30年という節目が近づく中、研究開発に関わる技術者がさらに活躍できる場をつくり、将来に向けて当社の強みを一層発揮できる環境を整えるために、その1階にテック・ラボの開設を決定しました。

また、「ゴールドウイン テック・ラボ」の誕生により、本社機能が東京から富山へ一部移転されました。東京・富山の2拠点化により、BCP(事業継続計画)の強化も実現しています。

### 【設計の特徴】

全面ガラス張りの開放的な雰囲気が特徴で、大半のスペースを訪問者に公開しています。この設計には「多くの人たちと情報を共有しながら研究を進め、未来をつくっていきたい」という思いが込められています。

## PROSPERITY

### 主な研究設備・施設

「ゴールドウイン テック・ラボ」は、当社の技術開発力を強化・推進するため研究設備と施設を備えています。



アーカイブ展示

当社が目指すべき未来を中心に表現し、その周囲には製品開発の歴史を象徴する機械・製品12点を展示。過去から未来へのつながり、テクノロジーと自然の調和、富山から日本、そして世界へと飛躍する志を表現しています。



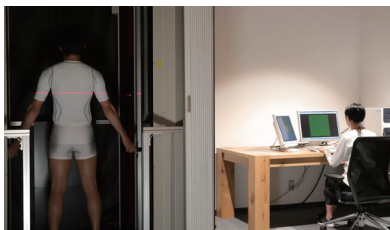
品質検査室

製品の品質検査・試験を行う施設。市場に合わせた品質維持と顧客満足を重視した品質保証体制を支えます。



恒温恒湿室

温度・湿度を一定に保持した条件下で素材・製品の性能試験・評価を行います。



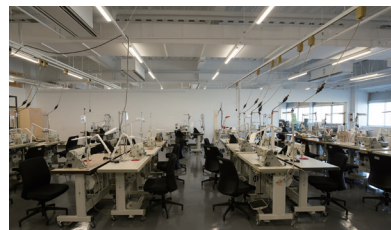
スキャナー、CAD

三次元計測装置や三次元CAD等を用いたパターン設計を行います。三次元情報を可視化し、より動きやすく着心地の良い製品開発を進めます。



サンプル試作室

当社の製造・加工技術を集結し、新しいアイデアを即座に具現化する場です。新たな加工技術の開発にも取り組んでいます。



研修室

技術・技能・知識を高めるための教育・研修ルームです。縫製や型紙などの実技教育も行うことができます。



運動研究室

モーションキャプチャによる動作測定をはじめ、運動力学や生理学などの科学に基づいた解析を行い、その結果から運動パフォーマンスや快適性を向上させるための製品の素材・パターンの開発を進めます。



人工気象室・人工降雨室

さまざまな気象条件を人工的に再現し、製品使用テストを行います。製品ごとに要求される機能を満たすことを試験するとともに、さらなる改良へ生かします。

(人工気象室/温度:-30~+50度、湿度:20%RH~95%RH)



ミーティング・プレゼンテーション室

高品質・高付加価値な製品開発を加速させる情報発信基地です。販売スタッフ研修や、実践的なVMD研修を可能にする仮想店舗を設置しています。

## PROSPERITY

### 「MOON PARKA®」のテスト検証を「ゴールドウイン テック・ラボ」で実施

当社は、Spiber株式会社とスポーツアパレル分野における事業提携契約を2015年に締結し、アウトドアアパレル「MOON PARKA®」の共同開発を進めてきました。2017年11月からは「ゴールドウイン テック・ラボ」にて製品化に向けた各種テスト検証を実施しています。

#### 【人工合成クモ糸繊維を用いたアウトドアアパレル】

「MOON PARKA®」は、Spiberの独自技術で開発した「Q/QMONOS (ロゴ)®」人工合成クモ糸繊維の生地を採用し、世界で初めて実際のアパレル工業ラインで製造されたアウトージャケットです。2015年10月にプロトタイプを発表して以来、素材品質の安定性を向上させるために、素材改良と試作を繰り返してきました。

現在、製品化を目指し、「ゴールドウイン テック・ラボ」にて低温環境を再現した人工気象室で保温力や機能性、耐久性を確かめるなど、各種テスト検証を進めています。また、この共同開発を通じて、石油などの枯渇資源に依存せず、強靱でありながら生体適合性に優れ、生分解性を持った構造タンパク質素材を開発することで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

「Q/QMONOS (ロゴ)®」は、Spiber 株式会社の登録商標 (登録第5618107号、及び登録第5625912号) です。





## PROSPERITY

SDGsの目標11では「住み続けられるまちづくりを」を掲げています。当社は創業地・富山における地域コミュニティ発展に貢献するため、富山地域でのスポーツ振興にも積極的に取り組んでいます。

### 「富山マラソン2017」にゴールドパートナーとして特別協賛

当社創業の地、富山県で2017年10月29日に開催された「富山マラソン2017」にゴールドパートナーとして特別協賛し、運営スタッフウェアの提供をはじめ、大会を盛り上げるためにさまざまなサポートを行いました。当社はこの大会を2015年の第一回大会からゴールドパートナーとして特別協賛しており、今回で3回目となります。

「富山マラソン2017」では、当社社員35名が大会公式ボランティアとして給水所にて、参加選手に水およびスポーツドリンクを提供、さらに社員有志による私設エイドも設営し、ランナーにエールを送りました。



### 「寛仁親王記念杯 第19回北陸ウェルフェアゴルフトーナメント」を特別後援

2017年10月19日、富山県小矢部市のゴルフ倶楽部ゴールドウインにて開催された「寛仁親王記念杯 第19回北陸ウェルフェアゴルフトーナメント」を今回も特別後援し、当社社員も運営スタッフとして協力しました。

本大会はゴルフを通じて障がい者福祉への正しい理解を深める活動の推進を目的としており、当社もその開催に毎年協力しています。さらに、収益金の一部を地元北陸の福祉関係団体・施設などへ贈呈し、贈呈先では施設の改修や備品・設備の購入、運営資金などに生かされています。

2017年の大会には北陸を中心に120名が参加。コース内4か所のショットホールをウェルフェアホールとし、スコアにあわせて募金をいただきました。寄付金と大会の収益金は、今回はNPO法人スマイルネットワークさかい（福井県坂井市）に寄贈されました。



## PROSPERITY

SDGsでは目標8において、生産性の向上と技術革新により、持続的な経済成長を促進することを目指しています。社員が豊かさや働きがいを実感しながら働くことができる環境構築に努めています。

### 「SPORTS FIRST」を自ら実践する社員を紹介し、表彰

当社は社員がさまざまなスポーツに取り組む姿、スポーツの経験を生かして製品やサービス開発に取り組む姿勢を紹介するウェブマガジン「SPORTS FIRST MAG」を運営しています。そして、「SPORTS FIRST MAG」に登場した社員の中から最も「SPORTS FIRST」を実践している社員を選出する社内表彰制度「SPORTS FIRST AWARD」を設けています。受賞者には賞状、賞品、スポーツ促進のための有給休暇が進呈されます。

社員自らがスポーツを実践することで、より良い製品の開発やお客様との信頼関係構築につながると考え、スポーツに取り組む社員を会社として応援しています。



### 新たな業態の開発と 店舗づくりを支える様々なアイデア

当社は、変化し続けるお客様のニーズに応え、さらなる豊かさを提供できるよう、製品だけでなく、多様な業態やサービスの開発にも取り組んでいます。

2018年3月29日に開業した商業施設「東京ミッドタウン日比谷」には、新業態である「THE NORTH FACE PLAY」をオープンしました。「THE NORTH FACE PLAY」では、製品とともに「遊び心」を提案します。個人の価値観を持ちながらも常に新しいコト・モノへの要求意識が高いお客様のために、時流を見定めた表現（驚き）を「遊び心」を持ちながら独自のチューニングを施し、発信し続けることが求められています。

また、当社は店舗を製品の提供の場だけではなく、お客様との大切なコミュニケーションの場として捉えおり、トレッキングやクライミングなどの体験イベントやワークショップをはじめとする、さまざまなサービスを各店舗にて行っています。



## PROSPERITY

### 接客と販売スキルを競うセールスコンベンションを開催

当社は店舗でのお客様との良好なコミュニケーションと、接客・販売のスキル向上を図るため、「セールスコンベンション(接客ロールプレイングコンテスト)」を行っています。2017年度は11月21日に開催され、全国の店舗を対象とした予選会を勝ち抜いた9名が「好感度」「あいさつ・お声掛け」「言葉遣い」「商品情報・専門情報」「会話力」「ニーズチェック」「提案力・説得力」「クロージング」「お見送り」の9つのポイントで、来店からお見送りまでの接客技術を競いました。社長、副社長、各店舗の代表者などの審査により、グランプリ1名、準グランプリ1名、審査員特別賞2名、おもてなし賞1名、敢闘賞が授与されました。



### 健康経営優良法人「ホワイト500」に認定

当社は2018年2月20日、経済産業省より2018年度の「健康経営優良法人」(ホワイト500)に認定されました。健康経営優良法人制度とは、地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業などの法人を顕彰する制度です。

当社は従業員の心と身体の健康と安全確保を経営の重要課題と位置づけ、定期健康診断の全従業員受診、敷地内禁煙やストレスチェックの実施、ワークライフバランスの改善のための残業時間削減や有給休暇の取得、健康増進やメンタルヘルス研修、子育て支援のための育児休暇取得推進など、従業員が心身ともに安心・安全に働ける環境づくりに努めています。パソコンの持ち出し禁止や午後8時の消灯など、働き方の仕組みや、従業員自身の意識改善など、根本的な見直しを行っております。



## PROSPERITY

### 女性社員の活躍

当社には多くの女性社員が在籍し、特に販売の現場において女性社員が活躍しています。全社員数における女性比率が50.7%に対して、販売職における比率は59%となっています。店長への登用も性別に関係なく実施されており、2016年度は38名、2017年度は39名となっております。

当社の課題の1つに、女性管理職比率の低さがあります。これを改善するため、ライフステージにキャリアが左右されやすい女性社員が継続的にキャリアを積み、活躍できる環境を整備するための現状把握を喫緊の課題と捉え、子育て中の女性社員に定期的にヒアリングを予定しております。

これまで小学3年生までの子どもを持つ社員に適用される、ベビーシッター料援助制度「二重保育料支援制度」や、自宅から遠い保育園に入園した場合の車通勤の許可と駐車場代の補助をする「駐車場代補助制度」、個別の事情にあわせて有給を柔軟に取ることができる「年次有給休暇の時間単位付与」など、子どもを持つ社員をサポートする制度を構築してきました。今後も働きやすい環境づくりの制度の充実に取り組んでまいります。



# PLANET

美しい自然は、スポーツを行う私たちのフィールドであり、地球環境の保護に貢献し、自然との調和を図りつつ企業活動を行うことは、すべての企業に課せられた責任です。当社は「地域社会と共存できる企業を目指す」ことを環境方針の中で定め、持続的かつ積極的に、自然環境の保護に取り組んでいます。私たちは、人々がスポーツを楽しめる豊かな自然を次世代に確かに受け渡すことを誓います。

## PLANET

当社では、スポーツ用品メーカーとして環境のためにできることを、GREEN IS GOODのコンセプトのもとで展開。「繰り返し使う」「選んで使う」「大切に使う」をキーワードに、製品づくりから回収・再生の各段階にて、緑の地球を守るための多彩な取り組みを実践。SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」への貢献を目指しています。

### スポーツ用品メーカーとして環境のためにできることを、 GREEN IS GOODのコンセプトのもとで展開

環境に配慮した製品の開発、楽しみながら環境への負荷を減らせるようなアイデアなど、スポーツ用品メーカーとして環境のためにできることを、GREEN IS GOODのコンセプトのもとで展開しています。

このコンセプトのもと、循環型リサイクルシステム「GREEN CYCLE」、環境負荷を抑える素材を選んで使う「GREEN MATERIAL」、長期間の着用・使用を目指した「GREEN MIND」の3つを柱に、アクションを展開しています。



### 「GREEN CYCLE (繰り返し使う)」 の取り組み: 循環型リサイクルシステムの 仕組みを強化

GREEN CYCLEは、使用後の製品を回収して新たな製品として再生する、循環型のリサイクルシステムです。

当社はGREEN CYCLEを2009年から開始。当初は、当社製品のポリエステル、ナイロン製品の回収・ケミカルリサイクルを行い、2013年からはダウン(羽毛)ウェアの回収・リサイクルを実施、2015年からはアイコレクトジャパンとのパートナーシップにより、当社製品以外のメーカーやブランドの服も着用の状態にかかわらず回収してきました。石油から製造した場合と同レベルの高純度原料に戻して再生するため、限りある化石燃料に頼らずに、今ある製品からエンドレスに新しい製品をつくることができ、エネルギー使用量、CO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減します。

そして2018年2月に日本環境設計株式会社ともパートナーシップを組み、回収したすべてのポリエステル製品を再生ポリエステル樹脂としてリサイクルしていく「BRING」システムを導入しました。



#### 【新たなGREEN CYCLEの仕組み】

当社店頭にて回収した製品は、アイコレクトジャパンにて仕分け・活用され、再び服として活用できないポリエステル製品は日本環境設計に渡され、新たなポリエステル樹脂へ再生されます。そして再生ポリエステルを使用した新たなスポーツウェアを当社が製造・販売していくリサイクル循環システムを構築していきます。

#### 【2017年4月1日～2018年3月31日の回収実績】

回収件数: 3,858件 (前年度対比181.0%)  
 回収重量: 2,400.5kg (前年度対比157.2%)  
 CO<sub>2</sub>削減量: 18,055.5kg-CO<sub>2</sub> (前年度対比157.2% / 環境省3R見える化ツール簡易版より)

## PLANET

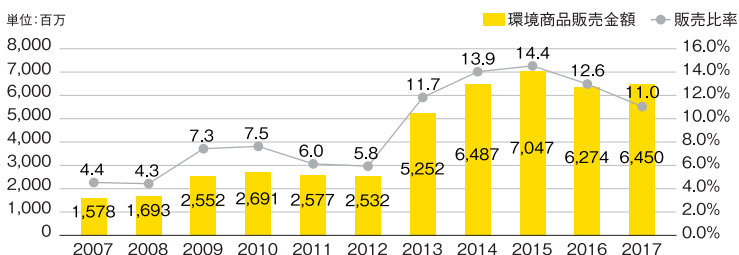
### 不要になった学校体操着を回収し、リサイクル

当社では不要になった学校体操着の回収を2012年度から毎年実施しています。回収する体操着は、当社が企画・製造・販売を行った体操服のうち、リサイクル対応素材使用の製品。回収後は、循環型リサイクルシステム「GREEN CYCLE」により、ポリエステル原料へとリサイクルしています。2017年度は、富山県の3高校に回収ボックスを設置し、54枚を回収しました。



### 循環型社会に向けての取り組み

環境商品販売実績推移



#### 【人の健康と環境にやさしい商品の開発・販売】

当社は環境方針として「人の健康と環境にやさしい商品の開発・販売」を掲げております。この目的を達成するため、2017年度は管理指標として「環境にやさしい商品の販売比率」を13%以上とすることを目指しましたが、残念ながら販売実績は11.0%にとどまり、目標値には届きませんでした。また販売金額では前年比97%と減少しましたが、環境配慮素材を使用した製品の売上は前年から微増しました。この結果を受け止め、環境配慮型商品の開発・販売、製品回収への取り組み、店頭での回収BOXの設置、グリーンダウンリサイクルプロジェクト、アイコ社との協働による製品回収リサイクルなどを、さらに推進してまいります。

### 「GREEN MATERIAL (選んで使う)」の取り組み: 玉ねぎの外皮を染料として利用したスポーツ衣料

当社と小松精練株式会社は、共同開発した特殊な技術により、玉ねぎの外皮を用いてメリノウールを天然色素と化学染料でハイブリッド染色したスポーツ衣料の製品化に、世界で初めて成功しました。当社が展開する「Icebreaker (アイスブレイカー)」ブランドで、2018年1月より販売しています。

天然染色の製品は美しい反面、色落ちしやすく、従来はスポーツ衣料に用いるには難しいものでしたが、今回開発した染色技術では、色落ちしにくく、美しい色合いが楽しめます。また、廃棄される予定の玉ねぎの外皮を染料として利用し、環境への配慮と自然界との共生を目指しています。



## PLANET

大量生産・大量消費・大量廃棄の社会経済システムを変え、生産と消費の形態を持続可能なものにしていくことが求められています。当社では40年前からザ・ノース・フェイス商品の修理体制を整え、お客様に商品を長期にわたって利用いただけるよう取り組んできました。



### 「GREEN MIND (大切に使う)」の取り組み:リペアサービス

当社では1978年に「ザ・ノース・フェイス」の商品を取り扱い始めた40年前から「もし素材や製造上の欠陥が原因であれば、代金は一切いただきません。その他の場合は、適正な価格で修理いたします」というポリシーを徹底したリペアサービスを行っています。現在は、「ザ・ノース・フェイス」をはじめとしたアウトドアブランドの製品に限らず、モーターサイクルウエア、スキーウエア、アスレウエアなども対象としています。

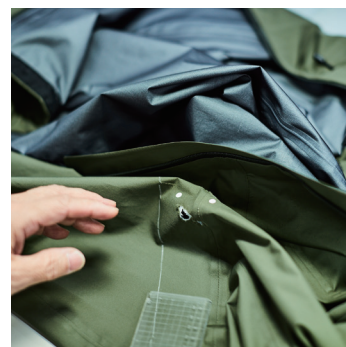
環境への関心の高まりなどにより、製品の使用期間は長期化する傾向にあります。それを受けて修理依頼も増加し、2004年の時点で年間3,500件程だった依頼は、2017年には12,600件と3.6倍に増えました。

#### 【ゴールドウインテクニカルセンター】

富山県小矢部市にあるゴールドウインテクニカルセンターは、当社取り扱い商品の一部生産を行えるほどの設備と技術を備え、新製品開発のほか、ザ・ノース・フェイス商品などの修理業務を担っています。



## PLANET



### 熟練した職人の技術力

富山のゴールドウインテクニカルセンターでは、縫製、溶着、修理業務などを、最新の機器を活用しながら熟練のスタッフが手作業で行っています。最新のテクノロジーが施された素材に、さらに高い機能性やこだわりを実現するのは、機械ではなく、こうした富山の熟練した人の技術によるものです。何種類ものミシンを使いこなす「多能工」というスタッフも多く抱えており、特に修理業務に関しては、このようなスペシャリストが担当。基本的に1着の修理に対して1人の職人が担当します。職人はそれぞれ商品の構造と作り方を理解し、1着すべてを作ることのできる技術を持っています。

【REPAIR SAMPLE 01】

ゴアテックスを使用したシェルの背面右肩付近の破れ



BEFORE



AFTER

【REPAIR SAMPLE 02】

インサレーションジャケットの袖口とアジャスター部分のダメージ



BEFORE



AFTER

## 環境活動報告

ゴールドウイングループでは「環境基本理念」と「環境方針」を定め、持続可能な社会実現のための行動計画を作成し、環境パフォーマンスの持続的な改善に取り組んでいます。

### 持続可能な社会を実現するために

#### 環境基本理念

私達には、自然と共存し調和ある繁栄を実現する崇高な使命が与えられています。ゴールドウイングループは、スポーツウエアをはじめ各種機能ウエアの企画、製造、販売を通じて環境負荷の低減を目指すとともに、健康総合企業として地球環境にやさしい商品の提供により環境への有益な影響を増進するなど、地球環境保護への姿勢を以下の環境方針に定めます。

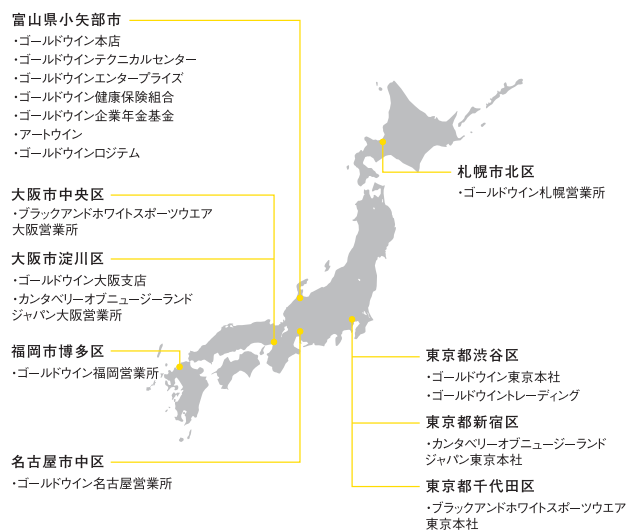
#### 環境方針

1. 事業活動または保有する設備が適用を受ける環境に関する法律、規則およびその他要求事項を遵守するとともに、可能な限り自主基準を設定し、環境の汚染予防と環境保護に努めます。
2. 事業活動が環境に与える有害な影響を認識し、全社員参加によりその影響を低減し、緑の地球を守ります。
3. 環境影響を改善するための目的・目標の設定、および見直しを実施し、継続的な改善活動を実施します。
4. エネルギーおよび資源の使用量・排出量を十分に認識し、限りある地球資源の有効利用、産業廃棄物の削減を実施します。
5. 持てる経営資源を結集して独自の技術を開発し、人の健康と環境にやさしい商品の開発を推進いたします。
6. 自然と生き物が健康体であり続けるために、自然環境に調和し、地域社会と共存できる企業であり続けます。

#### ISO14001 認証取得

ゴールドウイングループは富山地区にて、スポーツアパレル業界で初めて1999年11月にISO14001（環境マネジメントシステム）の認証を取得しました。環境保全活動・環境配慮商品の開発と省資源による事業効率向上とを両立させるため、2006年2月にはゴールドウイン全事業所と染色センターがISO14001の認証を取得。さらに2008年7月にはゴールドウインロジテムが、2011年8月にはカンタベリーオプニュージーランドジャパンが、2013年9月にはブラックアンドホワイトスポーツウエアが、同様にISO14001の認証を取得しています。当社の経営方針の1つである「きれいな経営」を実践し、雇用・経済活動に加え、環境に配慮した商品・サービスの提供を通じて社会に貢献してまいります。

#### ISO14001 認証事業所



## 環境活動報告

### 限りある地球資源の有効活用

当社は環境方針の中で「限りある地球資源の有効活用」を掲げており、省資源活動、原材料使用料の削減を進めています。2017年度は、原材料ロスの低減活動の推進、クレーム・リペア情報からのフィードバックによる設計改善、設備管理・工程管理の徹底、物流梱包資材の削減活動の推進、仕事の仕組み・仕方の見直しによる管理・効率のアップ(業務改善活動)の推進。使用後の製品回収活動再利用システム・製品回収量の向上(アイコレクトジャパンとの協働)に取り組み、2017年度は1年間で2.4tの製品を回収しました。

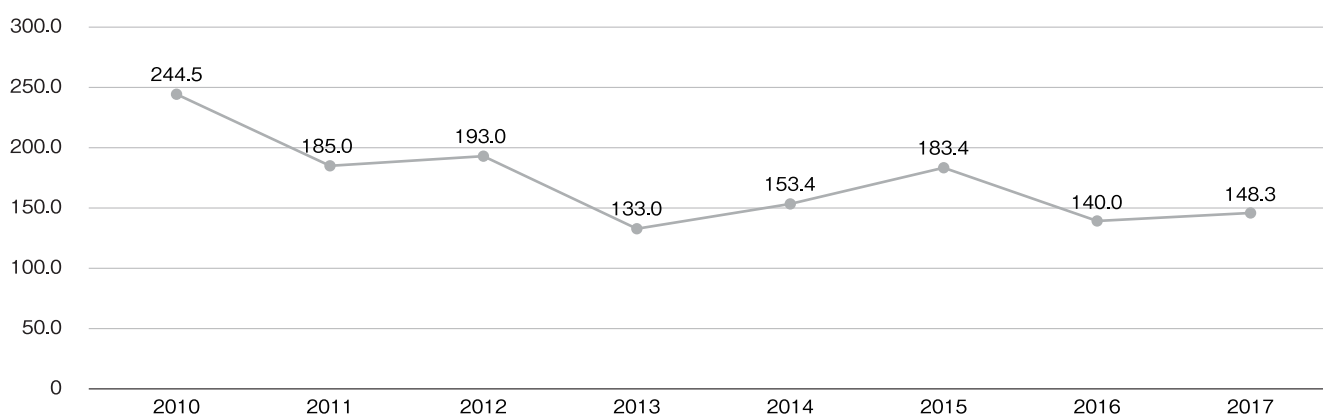
#### ①産業廃棄物の削減

##### 産業廃棄物の削減

当社は環境方針として、製品・原材料における廃棄処分量の低減を掲げ、その発生抑制と製品の再利用を進めています。2017年の結果は148tとなり基準年比目標を達成できました。今後も廃棄物発生予防へ向けた活動の推進、発注流動管理

の徹底、余剰資材の有効活用の推進、製品不良・リコール低減活動の推進、加工ロスの徹底排除、廃棄物の分別、細分化による再利用の推進、5S活動の推進などを通して、産業廃棄物の削減にこれまで以上に努めてまいります。

産業廃棄物(廃プラ)排出量推移(t)



## 環境活動報告

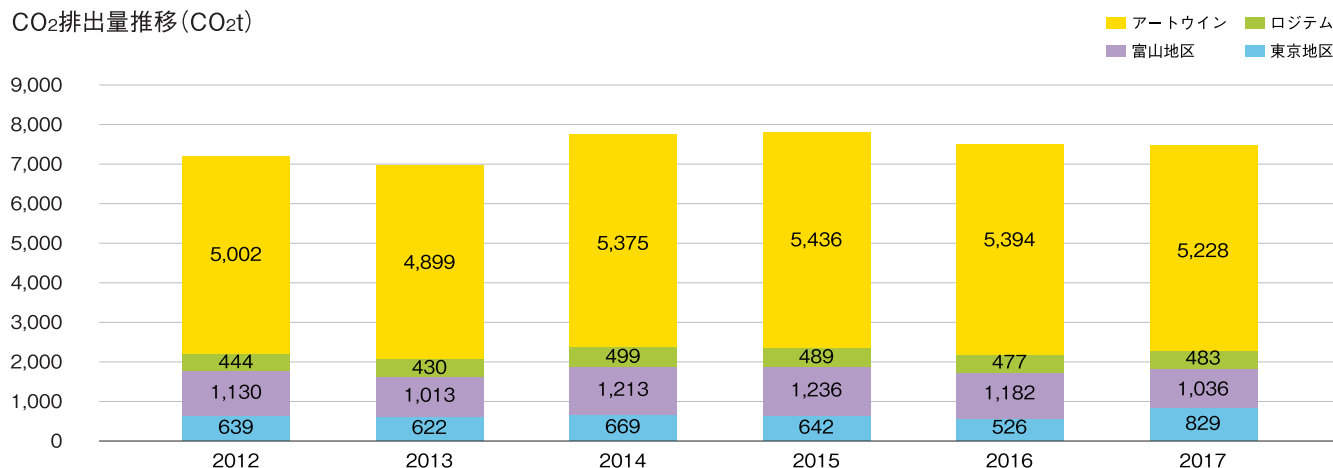
### ②低炭素社会に向けて

#### 環境の汚染予防と環境保護

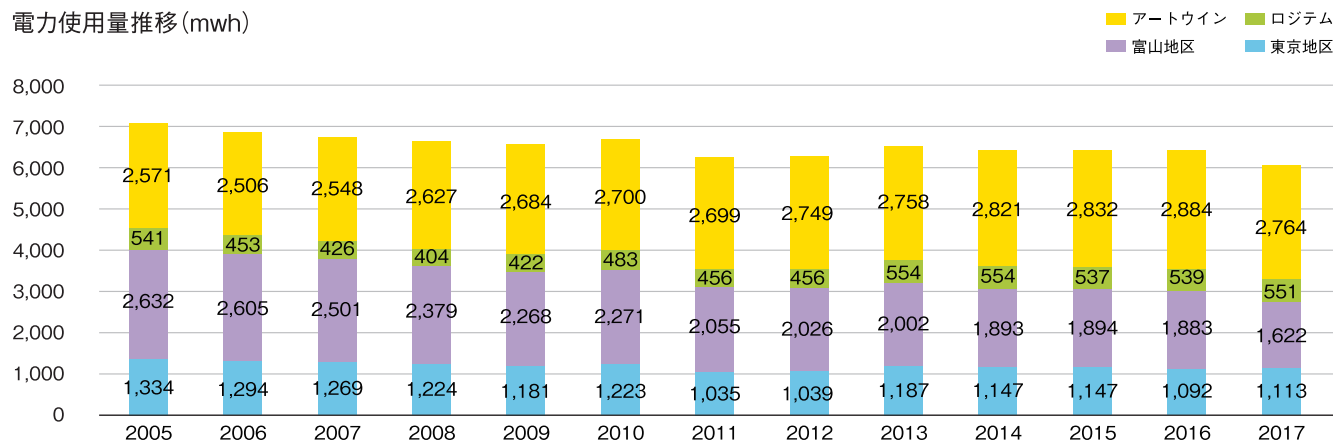
当社は環境方針の中で「環境の汚染予防と環境保護」を掲げており、CO<sub>2</sub>排出量の削減に継続的に取り組んでいます。2017年度は管理指標としてCO<sub>2</sub>排出量7,981t以内を設定、富山地区での照明LED化による電力消費削減の効果もあり、実績は7,575tと目標を達成しました。引き続き、省電力活動の

推進、業務改善や作業の効率化による時間外労働の削減、生産体制における省エネ設備の導入、メンテナンスおよび効率稼働、輸送ルートの見直しや積載効率の改善、アイドリングストップなどによる省エネ運転の推進など、低炭素社会のための取り組みを行っています。

CO<sub>2</sub>排出量推移 (CO<sub>2</sub>t)



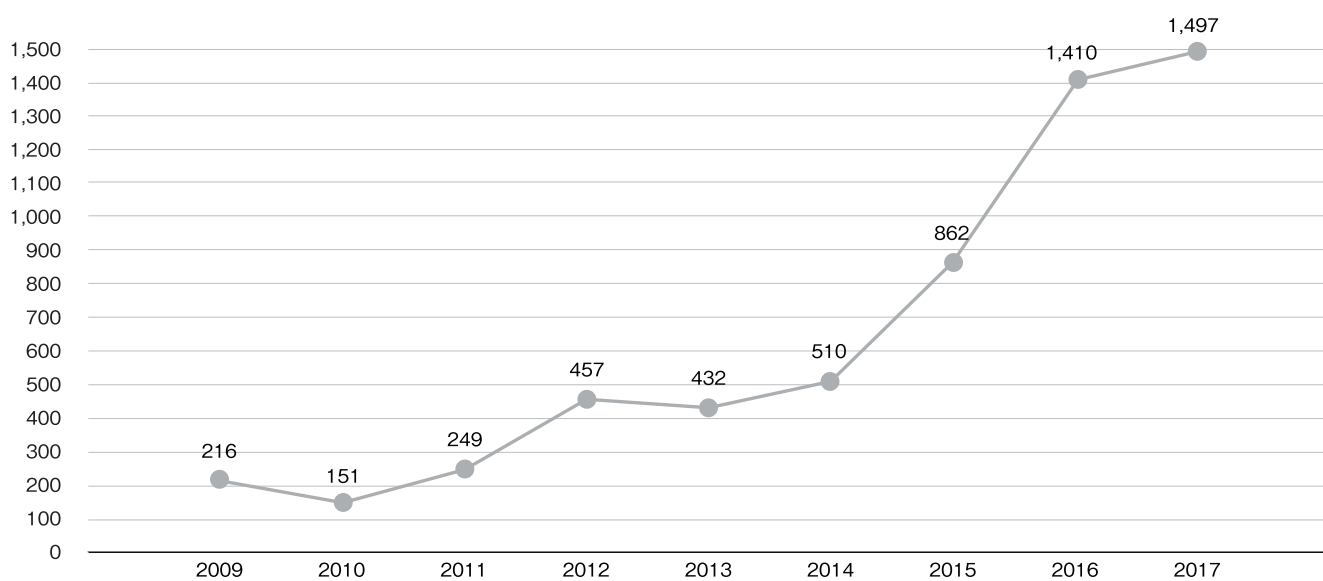
電力使用量推移 (mwh)



## 環境活動報告



業務改善件数推移(件)



## コーポレートガバナンス

### 社会に開かれた経営とコーポレート・ガバナンス

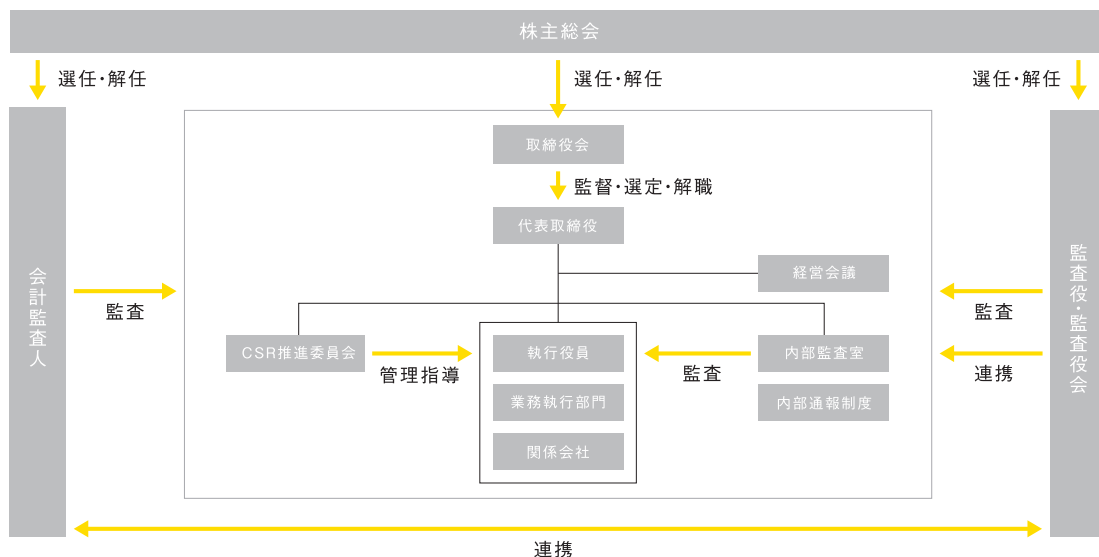
株主・投資家の皆さまとの関わり

良識ある企業としての社会的責任を果たすため、当社では経営の公開性をより一層高め、内部統制やコンプライアンスの遵守を通じ、公正で効率的な企業経営を実現してまいります。

### コーポレート・ガバナンス体制

ゴールドウイングループは、公正かつ効率的な企業経営の実現と、激変する経営環境へのスピーディな対応を目的として、コーポレート・ガバナンスの充実を、経営の最優先課題としております。取締役の職務責任を明確にするために、その任期を1年と定めています。取締役会は原則として月1回の頻度で開催されますが、必要に応じて不定期でも開催されます。取締役会では法令で定められた事項および重要事項の決定を行うとともに、業務の執行状況を監督し、その進捗報告を実施いたします。なお、取締役10名のうち、2名は社外取締役であります。取締役会が任命する執行役員は各々の領域で委譲された権限のもと、取締役会が決定する経営戦略に基づき、業務を執行します。取締役と常勤監査役、執行役員で構成される経営会議は、事業執行に関する重要事項などを審議決定するために、原則として月1回開催されます。監査役

会は4名で構成され、うち3名は社外監査役です。監査役は取締役会で意見を述べ、取締役の業務執行状況の監督を行うことによって、健全な経営と社会的信用の向上に努めます。内部監査を担当する内部監査室は、他の業務執行組織から独立しています。その客観的な立場より、法令および社内規程の遵守状況の確認を行うとともに、業務と経営効率の改善・向上、内部統制システムの運用状況のチェックを行い、その結果を代表取締役、業務執行取締役および常勤監査役に報告します。東京証券取引所においてコーポレートガバナンス・コードが制定され、上場規程として2015年6月1日より適用されております。当社はコーポレートガバナンス・コードの各原則を尊重し、これらを適切に実行してまいります。コーポレートガバナンス・コードへの対応状況などについては、コーポレートガバナンス報告書で適時開示しております。



## 内部統制システム～業務の適正を確保するための体制

当社は経営方針、タグライン「SPORTS FIRST:スポーツ・ファースト」、および行動規範に示される経営戦略ミッションをゴールドウイングループ全役員によって具現化するために、適切な組織の構築、規程・ルール制定、情報の伝達および業務執行のモニタリングを行い内部統制システムを整備・維持しております。また、内部統制システムは適宜見直しと改善を行い、適法かつ効率的に業務を執行する体制の確立を図っております。

内部統制システムの基本方針

<https://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr/open#section-C>

企業行動規範・従業員行動基準

<https://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr/open#section-E>

## コンプライアンス体制について

当社およびグループ会社では、内部通報制度の運用や、社外取締役・社外監査役が取締役会および監査役会において独立かつ客観的な立場から意見を述べることで、職務執行の適法性・妥当性を確保しコンプライアンス体制を構築しております。また全従業員を対象とする「コンプライアンス研修」を毎年実施(2017年度の実施回数は61回、履修率95.1%)しており、かつ各種研修の際にも法令や経営理念、行動規範などの周知徹底を行い、内部監査や内部統制評価を通じて、各拠点で業務手順やマニュアルの遵守状況について確認を行っております。全従業員に内部通報制度の仕組みや行動規範・行動基準等行動の指針となる携帯用の「コンプライアンスカード」を配布して常時携帯するよう指導しているほか、メールマガジン「コンプラマガジン」を定期的に発行し、従業員のコンプライアンス意識向上・啓蒙に努めました。

ゴールドウイングループ  
コンプライアンスカード  
(携帯用)

ゴールドウイン役職員は、  
このカードを念頭に倫理的に行動します。

**GOLDWIN**

## 会社概要

株式会社ゴールドウィン GOLDWIN INC.

東京本社

〒150-8517 東京都渋谷区松濤2-20-6 TEL 03-3481-7201(代表)

本店

〒932-0112 富山県小矢部市清沢210 TEL 0766-61-4800(代表)

設立	昭和26年12月22日
資本金	7,079百万円(2018年3月31日現在)
年商(連結ベース)	70,420百万円
年商(個別)	60,288百万円
従業員	1,569名(グループ2,330名)
事業所	本店、東京本社、大阪支店、札幌営業所、名古屋営業所、 福岡営業所(2018年3月31日現在)
会社概要詳細	<a href="https://www.goldwin.co.jp/corporate/info/about">https://www.goldwin.co.jp/corporate/info/about</a>
ホームページ	<a href="https://www.goldwin.co.jp/">https://www.goldwin.co.jp/</a>
決算短信等IR情報	<a href="https://www.goldwin.co.jp/corporate/info/ir">https://www.goldwin.co.jp/corporate/info/ir</a>

## 経営指針

### 1.強い経営

選択と集中を強め、財務体質を強化すると共に、中長期視点で積極投資し、企業価値を高める。

### 2.速い経営

顧客ニーズの変化に俊敏に対応し、商品企画から調達・販売までのプロセスを最適化し、実需型ビジネスを推進する。

### 3.きれいな経営

ワークライフバランスを重視すると共に、環境に配慮した事業運営と、情報の透明性を堅持する。

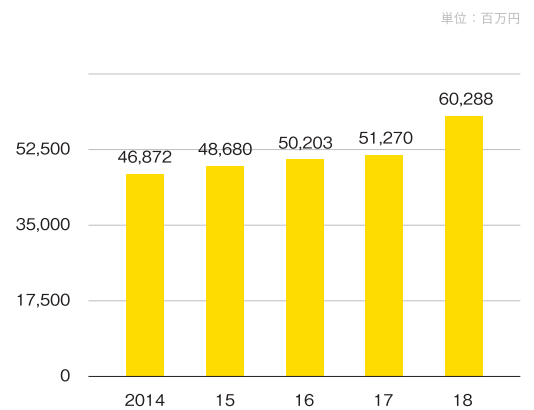
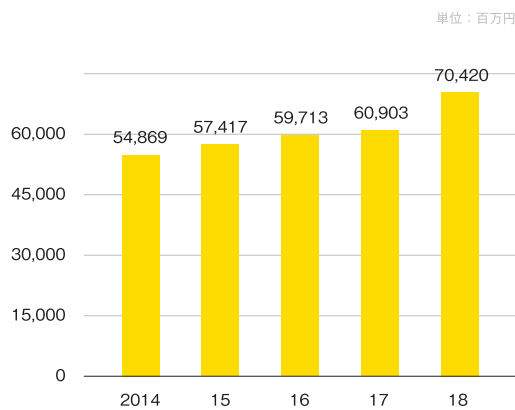


## 経営情報

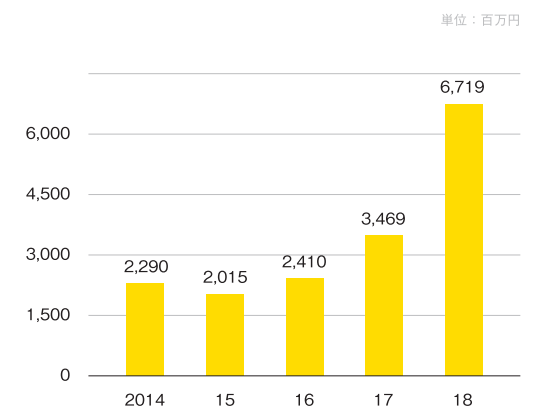
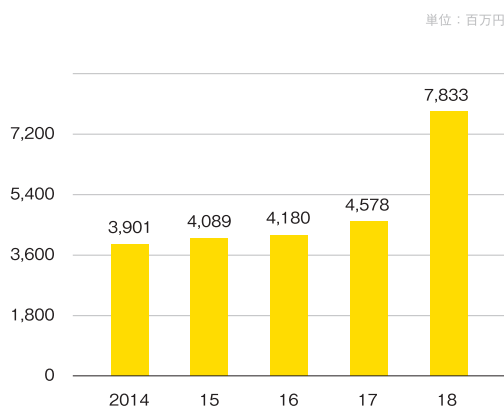
連結

単体

売上高



経常利益



当期純損益

